

短 報

帯広市における鳥獣類による樹洞利用の季節変化

村木尚子^{*,**}・柳川 久^{*}

(Accepted Jul. 25, 2006)

要 旨 村木尚子・柳川 久 (2006) 帯広市における鳥獣類による樹洞利用の季節変化 樹木医学研究 10 : 69~71 北海道帯広市において森林性鳥獣類による樹洞の利用実態を明らかにするために、利用種および利用数の季節変化を、一年を通して日中と夜間に調査した。樹洞の一次生産者であるキツツキ類 3 種と、二次利用者である鳥類および哺乳類 12 種が確認された。樹洞は、日中、夜間ともほぼ一年を通して利用され、利用率が最も高い時期は日中で 6 月、夜間で 7 月であったが、利用率の季節変化は日中と夜間で同調していた。二次利用者鳥類による利用は繁殖期 (夏) に多く、アカゲラ、コアカゲラ、ゴジュウカラおよびエゾモモンガによる利用は一年を通してみられた。繁殖のためだけでなく、ねぐらや休息のために樹洞を利用する種もみられ、樹洞は多様な鳥獣類によってさまざまな用途で利用されていた。

キーワード : 帯広市, 樹洞, 一次生産者, 二次利用者, 繁殖, ねぐら

Summary Naoko Muraki^{*,**} and Hisashi Yanagawa^{*} (2006) **Seasonal change in the utilization of tree cavities by wildlife in Obihiro City.** Tree and Forest Health 10 : 69~71 To determine how forest wildlife use tree cavities, we investigated seasonal changes in species which used tree cavities and the numbers of tree hollows used in the daytime and nighttime over a year in Obihiro City, Hokkaido, Japan. We found 3 species of woodpeckers, which are primary producers of tree cavities, and 12 species of other birds and mammals, which are secondary users of the cavities. The tree cavities were used both daytime and nighttime throughout most of the year. The highest rates of use were recorded in June in daytime and July at nighttime. Although seasonal trends were apparent, the rates of use were almost the same between daytime and nighttime in each season. Although the rates of use by secondary user birds were higher in the summer breeding season, the great spotted woodpecker, lesser spotted woodpecker, Eurasian nuthatch, and Russian flying squirrel used cavities throughout the year. Other species were also observed using the cavities for roosting or resting. Thus, different wildlife use tree cavities in various ways.

Key words : Obihiro City, tree hollow, primary cavity nester, secondary cavity user, breeding, roost

I. はじめに

樹洞は林業や樹木治療の立場からは、好ましからざる存在と考えられてきた (安藤 2004)。一方で、さまざまな

動物が、繁殖、ねぐら、隠れ場所、冬眠、採餌、体温調節などのために樹洞を利用する (Thomas *et al.* 1979)。

樹木の保全と樹洞を利用する動物の保護の両立を図るためには、動物による樹洞利用の実態を明らかにする必要

* 帯広畜産大学野生動物管理学研究室 〒080-8555 北海道帯広市稲田町西 2 線 11

** 現所属 : 京都府立城陽高等学校 〒610-0121 京都府城陽市寺田宮ノ平 1

* Laboratory of Wildlife Ecology, Obihiro University of Agriculture and Veterinary Medicine, Inada, Obihiro, Hokkaido 080-8555, Japan

** Present Address : Kyoto Prefectural Joyo Senior High School, Terada, Joyo, Kyoto 610-0121, Japan

※ 本記事の内容の一部は、樹木医学会第 9 回大会研究発表においてポスター賞を受賞したものです。

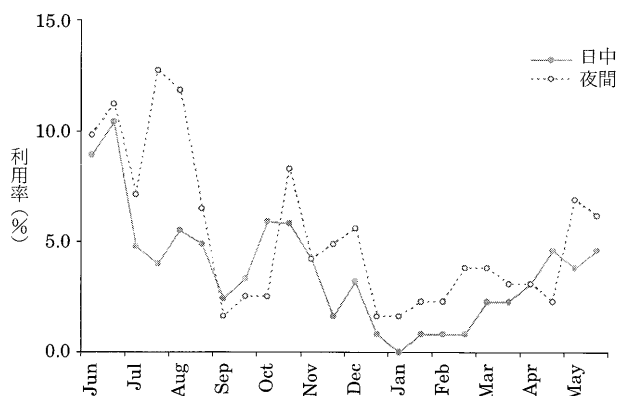


図-1. 鳥獣類による日中と夜間の樹洞利用率の季節変化

がある。これまでのところ、わが国における鳥獣類による樹洞利用の調査は、繁殖期 (Kotaka and Matsuoka 2002) あるいは繁殖期を中心とした (柳川・村木 2004) もに限られており、繁殖以外の目的での樹洞利用の実態については不明な点が多い。そこで、樹洞利用動物保護のための基礎資料を得ることを目的として、鳥獣類を対象とし、日中と夜間の樹洞利用について一年を通して調査し、その季節変化を調べた。

II. 調査地と方法

北海道帯広市の帯広畜産大学周辺に存在し、何れも農

表-1. 利用種と樹洞利用状況の変化

		Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec	Jan	Feb	Mar	Apr	May
アカゲラ	day	+	+	+									
<i>Dendrocopos major</i>	night	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
コアカゲラ	day	+	+										
<i>D. minor</i>	night	+	+	+	+		+		+	+	+	+	+
コゲラ	day												
<i>D. kizuki</i>	night												+
キビタキ	day	+											
<i>Ficedula narcissina</i>	night	+											
ハシブトガラ	day												
<i>Parus palustris</i>	night			+			+			+			
ヒガラ	day	+											+
<i>P. ater</i>	night	+											+
シジュウカラ	day	+	+	+	+								
<i>P. major</i>	night	+	+	+	+								
ゴジュウカラ	day												
<i>Sitta europaea</i>	night		+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
コムクドリ	day	+	+	+									
<i>Sturnus philippensis</i>	night	+	+	+									
カグヤコウモリ	day		+	+	+								
<i>Myotis frater</i>	night		+	+	+								
ヤマコウモリ	day			+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
<i>Nyctalus aviator</i>	night			+	+	+	+	+					+
ウサギコウモリ	day				+								
<i>Plecotus auritus</i>	night												
エゾリス	day												
<i>Sciurus vulgaris orientis</i>	night												+
エゾモモンガ	day	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
<i>Pteromys volans orii</i>	night	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
ヒメネズミ	day			+									
<i>Apodemus argenteus</i>	night												

+ : 樹洞内で各利用種による利用が確認されたことを表す。各月の左段は上旬、右段は下旬 (2003年6月~2004年5月)。

地や市街地に囲まれた3カ所の落葉広葉樹林で、鳥獣類による樹洞の利用を調査した。調査地Aは面積5.1ha、優占樹種はカシワ、調査地Bは面積4.1ha、優占樹種はヤナギ類、調査地Cは面積1.1ha、優占樹種はハンノキであった。

調査地内で地上から高さ4m未満の位置に樹洞を発見した樹木を標識し、2003年6月～2004年5月の各月上旬と下旬に、それぞれ日の出後の午前（日中）と日没後の午後（夜間）に樹洞の内部を観察した。鳥類の繁殖期である夏期には樹洞観察カメラ（HOGA PX/167SP/1 L-5m）を用い、冬期には脚立に登って手鏡と豆電球で工作した樹洞覗き装置を用いて観察した（村木ら2003）。観察対象とした樹洞数は128～140であった。樹洞内で鳥獣類を確認した場合を「利用」とした。

III. 結果および考察

本調査地には、アカゲラ *Dendrocopos major*（口絵写真-1）、コアカゲラ *D. minor*、コゲラ *D. kizuki* の3種のキツツキ類が生息しており、調査した樹洞の87.1%はこれらのキツツキ類が繁殖やねぐらのために掘った樹洞であった。これら一次生産者のほかに本調査地において樹洞利用が確認された鳥類（二次利用者鳥類）は、キビタキ *Ficedula narcissina*、ハシブトガラ *Parus palustris*、ヒガラ *P. ater*、シジュウカラ *P. major*、ゴジュウカラ *Sitta europaea*、コムクドリ *Sturnus philippensis* の6種で、二次利用者哺乳類はカゲヤコウモリ *Myotis frater*、ヤマコウモリ *Nyctalus aviator*（口絵写真-2）、ウサギコウモリ *Plecotus auritus*（口絵写真-3）、エゾリス *Sciurus vulgaris orientis*（口絵写真-4）、エゾモモンガ *Pteromys volans orii*（口絵写真-5）、ヒメネズミ *Apodemus argenteus*（口絵写真-6）の6種であった。

季節によって利用率に増減がみられたが、日中、夜間とも一年を通して樹洞は利用されていた（図-1）。利用率は日中では6月下旬、夜間では7月下旬に最も高く、冬期にむけて減少し、春にかけて増加に転じた。利用率の最も高い時期は日中と夜間で差がみられたが、秋から春

にかけての利用率の変化は、日中と夜間でほぼ同調していた。

多くの二次利用者鳥類（キビタキ、ハシブトガラ、ヒガラ、シジュウカラ、コムクドリ）は繁殖のために樹洞を利用し、その利用は5月から7月にかけて確認された。一方、一次生産者であるキツツキ類と二次利用者鳥類のゴジュウカラは、ねぐらとしても樹洞を利用し、これらは留鳥であるため利用が一年を通して確認された（表-1）。

哺乳類では、コウモリ類による利用が7月から11月上旬にかけて確認された。このうちカゲヤコウモリとヤマコウモリでは樹洞内での繁殖が確認された。エゾモモンガによる利用は一年を通して確認され、樹洞を繁殖用にもねぐら用にも用いていた（表-1）。

これらの結果から、樹洞の利用者には繁殖期のみ集中的に利用する種と、一年を通して普遍的に利用する種が存在することが明らかとなった。このような鳥獣類が生息可能な環境を維持するため、繁殖のためだけでなく、ねぐらや休息の場としての樹洞の有用性を評価し、総合的な価値を認識した上で樹洞木が保全されるべきであろう。

引用文献

- 安藤元一（2004）樹洞はだれのもの。1-4。（佐野 明編，樹洞シンポジウム報告集 樹洞は誰のもの？ 58 pp.，樹洞シンポジウム実行委員会，三重）。
- Kotaka, N. and Matsuoka, S. (2002) Secondary users of great spotted woodpecker (*Dendrocopos major*) nest cavities in urban and suburban forests in Sapporo City, northern Japan. *Ornithol. Sci.* 1: 117-122.
- 村木尚子・岸田久美子・柳川 久（2003）私たち，こうやって樹洞を調べてます。リスとムササビ 13: 11-13.
- Thomas, J.W., Anderson, R.G., Maser, C. and Bull, E.L. (1979) Snags. 60-77, (Thomas, J. W. ed., *Wildlife habitats in managed forests, the Blue Mountains of Oregon and Washington*. USDA For. Ser. Agri. Hnadbk. No. 553).
- 柳川 久・村木尚子（2004）北海道帯広市で樹洞を作る動物，それを使う動物。森林保護 293: 2-4.